



チョウをさわると、どうして粉こながつくの

チョウの羽はねには、粉こながびっしりついている

チョウをつかまえるとき、その羽はねをつまんでつかまえると、指ゆびに粉こながつきます。この粉こなは、チョウの羽はねについている鱗粉りんぷんとよばれるものです。

チョウの羽はねは、すきとおったうすい羽うへの上に、屋根やねのかわらをしきつめたように、鱗粉りんぷんがびっしり並ならんでいます。鱗粉りんぷんの1枚まいを見ると、サクラの花はなびらのような形かたちをしています。顕微鏡けんびきょうで千倍せんばいぐらいに大きくして見みると、この花はなびらの、根元ねもとのように見みえるとがった部分ぶぶんが、1枚まいずつ、羽はねのソケットまのようになっただけに、しっかりささっています。ニワトリの皮ひふの、毛けあながもり上がって、羽はねが生はえている感じかんじにそっくりです。

鱗粉りんぷんは、毛けが変化へんかしたもの

鱗粉りんぷんは、チョウの羽はねの表面ひょうめんの毛けが、平べったく変化へんかしたものなのです。鱗粉りんぷんは、水みずをはじく性質せいしつがあるので、雨あめに当たっても、チョウはぬれません。鱗粉りんぷんが、はげ落ちてしまうと、チョウはうまく飛とべなくなりますし、雨あめも防ふせげません。

ガは、チョウと同じように鱗粉りんぷんをもっています。ところが、オオスカシバというガは、さなぎからガになったとたんに、鱗粉りんぷんをはらい落おとしてしまい、すきとおった羽はねだけになってしまいます。このため、よく、ハチにまちがえられます。(監修・中山 周平)

